



## 自分を出すことで拓けた キャリアアップの道

大学院に進まず文系就職。日本ロレアルの横田さんは「好きな化粧品を作りたい」と研究者の道を目指して理系へ進んだ。しかし、持ち前のコミュニケーション能力をより生かせるような仕事がしたいと学部卒での就職活動を始めたという。現在の仕事は、サプライチェーンシステムのリニューアルを担当するプロジェクトマネージャー。入社5年目で横田さんが抜擢されたきっかけは何だったのか。理系女子学生へのアドバイスとあわせて話を伺った。

日本ロレアル株式会社  
アジア LPD/ACD オペレーション本部  
アジア マーケット サプライ ロジスティクス  
プロジェクト マネージャー

### 横田 尚加 さん

——日本ロレアルに入社された経緯をお教えてくださいいただけますか？

化粧品に興味があり「いつか自分でつくりたい」と思いまして、化学を専攻していました。それが大学に入って、実験の授業を受けるうちに自分のやりたいことは本当に研究なのか、悩むようになりました。絶対に好きなことを仕事にしたかったので、研究職に就いて最後まで好きでいる自信がなくなってしまうんですね。

そんな時に友人と話をしていたら、文理を問わない採用枠もあると教えられました。自分が打ち込めることを仕事にしたい、チャンスがあるならやってみようというポジティブな気持ちで就職活動に臨みました。

大学に入ってから、お客様のニーズを聞く側で人と接しながら働きたいと考えるようになっていました。そう考えると、どこに配属になるかわからない総合職採用の会社を対象から外すと、職種別採用をしている数社に絞られました。そのうちの1社がロレアルでした。絶対に入りたい化粧品会社でしたし、外資系ですの手を挙げれば大きな仕事も与えてくれると聞いていました。運良く内定をいただいで、これはもう行くしかないなど。

——就職活動中に理系出身ということで苦労したことは？

幸運にも苦労したことはないですね。理系で女性の学生はあまりいないので、珍しがられることが多かったです。逆に印象に残りやすかったのも、プラスに働いたのではないのでしょうか。いろんな会社での面接を通して分かったことなんですが、文系就職しようとするその理由をよく聞かれるんですね。良く思ってくれる人は「理系なのにやる気がある」と思ってくれるんですが、「勉強が嫌いなだけなのでは？」と色眼鏡で見られる時もありました。志望度の高かった会社でも色眼鏡で見られると印象が変わってしまって、急に冷めてしまいました。そんな中で面接でも私の本質を見極めようとしてくれた企業がロレアルでした。

——今のお仕事はどんな内容なんですか？

入社してからはサプライチェーン（物流）の部署で、アジアのグループ各社からオーダーをまとめて、日本の工場に発注し、各国に製品を輸出するという業務を担当していました。シュウウエムラやランコムを担当でしたね。現在はプロジェクトマネージャーとしてサプライチェーンのシステムをまったく新しいシステムに入れ替えるプロジェクトを担当しております。

既存のシステムはお金を管理する会計部を中心に考えられていて、サプライチェーン部門が管理するロット管理や在庫管理には弱いといった問題点がありました。そうした課題を解決して、上海のグループ企業が使っている最新のシステムに足並みをそろ

えようと。日々行われている業務には支障をきたさずに、システムの質を向上させることが求められる仕事です。

いろんな部署ともつながりのあるシステムですから、関係する部署の担当者と話しながら仕事を進めています。サブライチエーンの業務については分かっていますが、それ以外の部署との調整には苦労しましたね。工場のこととか、ある程度ものづくりについては説明されれば分かりませんが、問題は会計部。理系だったので、「P/L」とか「B/S」とか言われても、何を話しているのが最初はまったく分かりませんでした。分からないものはすぐにネットなどで調べて必死で知識を吸収していきました。

大変なこともあります。仕事のやりがいを感じる場所でもありますが。ほかの部署の人たちがどんな仕事をしているのか、普段の仕事でかわっていなかった部署のことも詳しく知ることができました。

——これまでのキャリアの中で、ターニングポイントになった出来事は？

自分を出せるようになったことですかね。本当は隠せず意見を言っていて、質問とかもどんどんするような性格ですが、入社当時は右も左も分からない状態で、自分の意見なんて言えない状況でした。それがある時、上司が新人だった私に「今のこのやり方ってどう思う？ 新鮮な目線で答えてく

ればいいから」と聞いてくれました。私は思った通りに気になった点を素直に答えました。そこを買われたのか、折に触れて意見を求めてくれるようになり、部署の中で改善点を発言できるようになっていきました。

自分でも図々しかったかもしれないけどもうのが、2〜3年目に「これだけやっておいて」と指示された仕事だけをやっていた時期のこと。私は人に与えられた仕事だけをするのが嫌で、忙しくても自分で仕事を見つける方が好きなんです。それで上司や副社長に直接メールして、現状に不満があると正直にアピールしたら、年度末の評価面談の際、上司から「来年は忙しくなるよ」と言ってもらえたことがありましたね。

日本人は普通、意見があってもなかなか言えない傾向があると思いますが、私は図々しいくらいに思ったことを言うようになっています。それがターニングポイントになった面もあるんです。今のポジションに空きが出た時に上司から「この仕事を担当する意思はあるか？」と聞かれました。チャレンジすることが好きなので喜んで受けましたが、そんな風にアピールしてきたことが効いたんだと思うんですね。

——キャリアに迷う理系女子にアドバイスがありましたらお願いします。

同期の友達には大学院に進み、研究職として働いている人や、私のように研究とは離れた分野で

働いている人もいます。理系学生が得意としている論理的思考能力ですとか、数値感覚といったところに関心を持っている企業も少なくはなく、私自身も日々の業務の中で大学時代に養った物事の考え方が生きていると感じる瞬間が多々あります。理系イコールこの仕事という固定概念にとらわれることなく、「どんな仕事をしたいか」、「どういった働き方をしたいか」また「その会社でどのよう成長していきたいか」まで見通した上で、後悔しないように自分のやりたいことをやってもらいたいですね。



横田 尚加 (よこた・なおか)

神戸大学 工学部 応用化学科 システム工学専攻 卒。

在学時は土器の破片などの土の成分から、出土品の年代を解析するプログラムの構築を研究テーマにしていた。学生時代の研究と入社後のサプライチェーンでの経験を生かし、現在はシステム移管プロジェクトに携わる。